

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2022年 7月 1日にパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

区分 I: 該当なし

区分 II: 該当なし

区分 III: 該当なし

その他: 3 件

NO.	号機等	不適合件名	グレード	発見日
1	1号機	運転中の換気空調系主冷凍機(C)が「潤滑油異常」により自動停止した。しかし、潤滑油温度は66℃であり設定値(70℃以上)未満であったことから、潤滑油温度スイッチ(U41-TS217C)の動作接点のずれが疑われるため、当該計器を点検・調整。 なお、主冷凍機(C)自動停止による冷媒の漏えいがあったことは確認済み。	G III	6月29日
2	1号機	補機冷却海水系ポンプ(A)は6月30日の点検期限前(6月29日)から点検を開始することで準備を進めていた。当該機器の点検により空調設備の冷却水源がなくなるため、スポットクーラーを準備していた。しかし、外気温度の上昇によりスポットクーラーではコントロール建屋内の機器を十分に冷却することが難しいと判断したことから、社内マニュアルの定めに従い当該機器の点検期限延長の妥当性評価を行い、点検期限を2022年12月まで延長する。	G III	6月29日
3	3号機	コントロール建屋非放射性ストームドレンサンプポンプ(B)が運転した際に、コントロール建屋非放射性ストームドレンサンプポンプ(A)が逆回転していることが認められたため、コントロール建屋非放射性ストームドレンサンプポンプ(A)出口逆止弁(U63-F032A)を点検・修理。 なお、コントロール建屋非放射性ストームドレンサンプポンプ(A)の逆回転は、別の弁を全閉としたことにより停止を確認。	G III	6月28日